



新渡戸稲造生誕 160 周年記念「新渡戸稲造博士の足跡をたどる」 国際基督教大学総務理事 富岡 徹郎

8月3日。軽井沢の観光振興センターにおいて「新渡戸稲造生誕 160 周年記念セミナーが開催された。

新渡戸博士は、教育者であり、思想家であり、実務家であり、真の国際人であった。しかしなぜ軽井沢での開催なのかというと、新渡戸博士と妻メリーさんにとって軽井沢が特別の場所であったからだ。洋館の別荘のあったところは、新渡戸通りという地名が残されている。カナダの病院で息を引き取る前に、別荘内を流れる小川のせせらぎの音を懐かしく思い出している。そして 1911 年より、新渡戸博士は今も継続する「軽井沢夏期大学」を後藤新平氏と共に立ち上げて全国から受講者を軽井沢に集めている。

セミナー第1部は、元盛岡大学教授の角谷晋次先生による「新渡戸稲造の生涯 ～ ライフ・サイクル」と題して講演が行われた。新渡戸博士の生涯をエリクソンのライフ・サイクルモデルに当てはめて、その波瀾万丈の人生を振り返った。幼少期における母親の愛情、青年期におけるキリスト教信仰との出会い、そして成年期におけるクェーカーだったメアリーさんとの国際結婚を通じて徳のある国際人形成に大きく関わったのだという。

午後の第2部では、順天堂大学名誉教授である樋野興夫先生から「人生邂逅 ～ 普遍的な人間関係の要～」というテーマで勝海舟、新島襄、内村鑑三、新渡戸稲造、南原繁、矢内原忠雄の「根底を一貫して流れる繋がり」が語られた。新渡戸氏が語った「最も必要なことは、常に志を忘れないよう心にかけて記憶することである」という言葉が引用され、また人間として一人の人に寄り添う、がん哲学外来の志が語られて大いに元気づけられた。その後の宮澤牧師司会による質疑応答・自由歓談の時間では本ニューズレターを編集担当されている星野昭江さんにご主人様により、新渡戸博士とメアリーさんが札幌で開いた遠友夜学校の校歌の歌とギター伴奏のご披露もあった。講演会の後、会場から 10 分ほどのところにある新渡戸通りを歩いて、「新渡戸稲造の別荘跡地」付近を散策した。跡地は、ある大手企業の保養所となっているが、新渡戸氏の説明看板があり、庭園には当時と同じように敷地を流れる小川が残されていた。今後も、若い世代にもっと新渡戸稲造博士の事を伝えていくためにこのような会を継続していきたい。



「新渡戸稲造の生涯～ライフサイクル～」

盛岡仙北町教会 牧師 角谷 晋次

新渡戸稲造の生涯をライフ・サイクルの視点からその人間形成の過程を見て参りたいと思います。成人教育者の E・H. エリクソンは人間の人間の一生を8つに区分して八位相としました。その区分で新渡戸博士の人生を見ていきます。第1位相は「乳児期」(0～1歳)、人間の基本的信頼感の形成される時期です。新渡戸は母親のセキから豊かな愛情を受けて育ちました。新渡戸は、いつも母親に添い寝して寝ていたと記しています。人間の徳、善悪を選択する力もこの時期に形成されました。第2位相「乳児期」(2～3歳)、新渡戸は「世渡りの道」で、「僕は幼少のとき、皆から要望の醜さを笑われ、人前に出るのを恥ずかしく思った」と記しています。この羞恥心から解放されるのは、札幌農学校に学び、キリスト教信仰を得た後でした。

第3位相「初期児童期」(4～5歳)、「良心の形成」時期です。新渡戸は、良心の「内なる声」を聴き、育ちます。第4位相「学童期」(6～11歳)、新渡戸は10歳のとき叔父の太田時敏をたよって上京して、「共慣義塾」で学びます。劣等感を克服して勤勉性を育てます。第5位相「思春期と青年期」(12～20歳)、16歳20歳まで札幌農学校で学びます。自我のアイデンティティ形成の人生で一番大切な時期ですが、クラーク博士が残っていた「イエスを信じる者の契約」に署名して、ピューリタンのキリスト教信仰を得て、それ以後の人生をキリスト教信仰で生きていきます。第6位相「成人初期」(20～30歳)、1886年、25歳のとき、フレンド派の会員となり、生涯をクェーカーの信仰で、隣人愛と平和実現に励みました。1933年にカナダで72歳で召されました。新渡戸にとって、その信仰は「品性の形成」として結実しました。